

小麦「ニシノカオリ」栽培暦

排水対策の徹底 湿害が収量・品質を左右する	11月中旬からの適期播種 早播き・遅播きを避ける	麦踏みの実施 分けつ促進と凍霜害の防止	赤かび病は2回防除 開花始め～開花盛期から	令和8年7月作成
---------------------------------	------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	----------

月 旬	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
生育ステージ		播種・出芽					分けつ					幼穂形成			節間伸長					出穂・開花			登熟			成熟・収穫				
施肥・管理	種子消毒・基肥・播種						麦踏み（3葉期～節間伸長開始期）																							
													穂肥1（幼穂形成期）						穂肥2（止葉抽出始期）						実肥（開花期）					
	排水溝の整備・降雨後の溝さらい（随時）																													
防除・収穫	土壌処理除草剤						生育期除草剤												赤かび病1			赤かび病2								
	収穫（6/15まで）																													

※幼穂形成期・止葉抽出始期・開花期は年次により変動します。生育予測を参考にしつつ、必ずほ場で生育を確認して作業時期を決めてください。

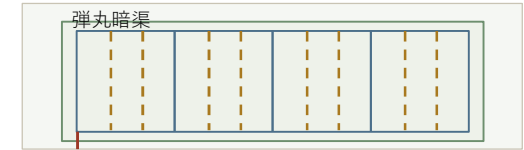
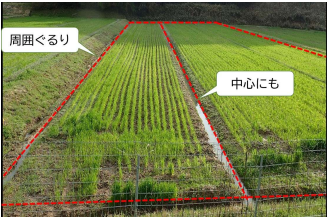
品種の特性

ニシノカオリはパン・中華めん用の硬質小麦です。タンパク質含有率を確保できるかどうかの評価を左右するため、開花期の実肥が欠かせません。

排水対策

麦は湿害に弱く、ほ場の排水性が収量と品質を大きく左右します。特に出穂期から登熟期の湿害は登熟不良につながるため、春先の長雨に備えてください。

- ほ場周囲に明渠を設け、内部にも5～10m間隔で排水溝を入れる仮
- 弾丸暗渠を2～3m間隔、深さ30cm程度で施工する仮
- 周囲溝は必ず排水溝・排水口につなげる
- 明渠内を点検し、土塊などを取り除いて水がたまらないようにする
- 降雨後は溝さらいを行う



排水溝は周囲をぐるりと囲い、中心にも設ける。

土づくり

- 土壌診断に基づき、pH6.0～6.5を目標に石灰資材を施用する（苦土石灰100～200kg/10a）仮

- 稲わらをすき込み、堆肥1～2t/10aを施用して地力を維持する仮

播種

播種時期	11月中旬から始め、12月15日までに終える
播種量	7～9kg/10a（ドリル播き、条間25cm）
播種深度	2～3cm

早播きは凍霜害や品質低下の原因になります。砕土・均平を丁寧に行うと、出芽が揃い土壌処理剤の効果も高まります。

種子消毒

対象	薬剤名	処理方法・使用量
なまぐさ黒穂病など	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%（種子10kgに50gを粉衣）
鳥害防止	キヒゲンR-2フロアブル	種子10kgに200mlを塗抹

施肥

区分	時期	窒素 kg/10a	ねらい
基肥	播種前	7	初期生育の確保
穂肥1	幼穂形成期（6葉期頃・2月上旬）	2～3	穂数・粒数の確保
穂肥2	止葉抽出始期（3月中下旬）	2～3	収量の確保
実肥	開花期（4月中旬）	3～4	タンパク質含有率の確保

実肥は必ず施用してください。硬質小麦であるニシノカオリでは、開花期の窒素がタンパク質含有率を決めます。

- 穂肥2の時期は稈長も伸びやすいため、過剰な施肥は避ける
- 穂肥1から穂肥2まで期間が空くと肥料切れを起こすことがある。葉色が薄い場合は窒素1～2kg/10aを早めに追肥する

施肥量の目安

NK化成C20号（NPK 20-0-10）：窒素2kg/10aは10kg/10aの施用
尿素（NPK 46-0-10）：窒素2kg/10aは4.3kg/10aの施用
算出式：必要成分量÷成分含有率×100

麦踏み

3葉期から節間伸長開始期までの間に、土壌が乾いた日を選んで行います。分けつの促進、凍霜害の防止、倒伏の軽減に効果があります。生育量が不足しているほ場では実施しません。

雑草防除

時期	薬剤名	使用量/10a	希釈水量	使用時期
播種前～出芽前	ラウンドアップ マックスロード	200～500mlℓ	50～100 Lℓ	耕起前・播種前、播種後出芽前
播種直後	リベレーター フロアブル	60～80mlℓ	100 L	播種後～麦3葉期（イネ科雑草1葉期まで）
播種直後	ムギレンジャー 乳剤	300～600mlℓ	50～100 Lℓ （少量25～50 L）	秋播栽培のは種後出芽前（雑草発生前）
生育期	ハーモニーDF	5～10g	50～100 Lℓ	播種後～節間伸長前
生育期	ゴーゴーサン 乳剤	300～500mlℓ	70～100 Lℓ	生育期（雑草発生前）、収穫60日前まで。全面土壌散布

収穫前に、異物混入の原因となるカラスノエンドウなどを抜き取ってください。

赤かび病防除

赤かび病はかび毒（DON）を生成します。食品衛生法の基準値は1.0mg/kgで、これを超えた麦は食用として流通できません。県産麦は近年、他産地に比べてDONの検査値が高い傾向にあります。適期の2回防除を徹底してください。

防除	時期	薬剤例	希釈倍率	散布量/10a
1回目	開花始め～開花盛期	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	60～150 L
2回目	1回目の7～10日後	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	60～150 Lℓ

- 開花前の防除は効果が劣ります。必ずほ場で生育を確認してください
- 2回目は薬剤感受性の低下を防ぐため、1回目と系統（FRACコード）の異なる剤を使ってください。トップジンMはベンズイミダゾール系（1）、ミラビスはSDHI系（7）で系統が異なります
- トップジンMの収穫前日数は7日、使用回数は2回以内です
- 出穂期以降に平均気温18～20℃で湿度80％以上が3日以上続く場合や、降雨・低日照が続く場合は発生が多くなります

※「開花期」とは、1穂につき数花開花しているものが全穂数の40～50％に達した日を指します。防除適期の早限である「開花始め」は、これより早い時期です。

収穫・乾燥・調製

- 穀粒水分が28％以下になったら、速やかに収穫を始める。刈り遅れて雨に当たるとかび毒が生成されやすくなる
- 収穫後の放置は厳禁。乾燥までの間にもかび毒は増える
- 乾燥は熱風温度50℃程度、毎時の水分低下率2％程度を目安とする
- 赤かび粒は健全粒より粒厚が薄く比重も小さいため、粒厚選別と比重選別を併用する。選別時は流量を少なくする
- 赤かび病が発生したほ場では仕分け収穫・仕分け乾燥調製を行い、被害粒が混ざらないようにする。倒伏したほ場は特に注意する